

2016年 9月 第58号

うぐいす

平成28年度

第1回 地域医療懇談会



TAKE FREE
ご自由にお持ちください



平成28年6月29日(水)、会場を今回初めて一関東消防署に移して、今年度第1回目の千厩病院地域医療懇談会を開催しました。平成21年4月に始まったこの懇談会は今回で通算16回をむかえることとなり、医療関係者や地域のボランティアさんを始め大勢の方にご参加いただきました。地域の皆さまの関心の深さが感じられる懇談会となりました。

はじめに今回の懇談会に参加した当院職員を紹介し、普段の皆さまへの思い等の挨拶の後、下沖収院長より『千厩病院の現状と地域包括ケア』と題し、「高齢化がどんどん進む中で、総合診療科を起ち上げ東磐井の砦としてどんな患者も受け入れたい。在宅での介護が進められるなかで、医療・介護・福祉との連携を更に密にしたい。」と話されました。

続いて当院、退院支援看護師及川紀子主任看護師、医療法人三秋会介護老人保健施設やまゆり施設長の富田幸男氏、社会福祉法人千厩寿慶会の佐藤広美氏、一関東部包括支援センターの小野寺久美氏より、それぞれの立場から現状や取り組み、今後の課題などのお話がありました。連携の基礎となるものとして患者ご本人とそのご家族の意向が第一で、それを支えるのが医療・福祉とし、それぞれが強く結びついてこそ「地域包括ケア」であることなどが発表されました。



パネルディスカッションの後、地域の皆さまから、在宅で介護するにあたり介護サービスの利用がいろいろな種類や条件があってわかりにくい、独り暮らしの方が急に病院にかかるようになった時どうすればいいか、などの質問が出されました。そこで大東病院の看護師長より大東病院で、すでに活用されている『健康ファイル』の事例報告などが話され、コメンテーターの谷藤内科医院院長の谷藤正人先生からも暮らしのシートの活用について提案されました。また谷藤先生からは「在宅医療や介護について関心をもち、さらに連携も強化しようという姿勢がうかがわれた。さらに視野を広げて在宅支援を充実していただければいい。」との話がありました。

「この懇談会で改めて、地域住民・医療・介護・福祉の連携と信頼が今後の病院の在り方に関わることだと感じました。」等と下沖院長から挨拶があり会は終了となりました。

第2回の地域医療懇談会は2月頃を予定しておりますので皆さまのご参加をお待ちしております。

地域医療福祉連携室

本誌の内容

- 1 P 地域医療懇談会
2 P トピックス (小羊幼稚園慰問・ふれあい慰問の会など)
3 P 総看護師長より (ご挨拶)
4 P・5 P 放射線技術科紹介
6 P 千厩夏祭りに参加して

小羊幼稚園慰問

6月の第2日曜日はキリスト教の「花の日」とされており、毎年、千厩小羊幼稚園の皆さんが当院に慰問のため訪れます。今年も6月8日(水)に園児・職員の皆さんが当院を訪問してくださいました。入院患者さんや職員を前に、元気に歌やお遊戯を披露した後、自己紹介などがありました。その後、各家庭から持ち寄った花とメッセージカードを患者さんにプレゼントしていただきました。花を受け取った患者さんは、満面の笑顔になり、また園児と握手した患者さんは涙をうかべていました。園児たちと和やかなひと時を過ごしました。



東磐井盆栽展



6月13日(月)から15日(水)まで、東磐井盆栽会の皆さんによる、丹精込めて育てた盆栽の展示会が今年も病院内で開催されました。平成9年から毎年、サツキなどが咲き揃うこの時期に開催しており、診察にいらした患者さんや職員等、思わず見入ってしまう見事な作品の数々に感激していました。

プランターの寄贈がありました

7月12日(火)、千厩ロータリークラブ(RC、古川孝会長)の皆さんから、プランターを10個寄贈していただきました。千厩高等学校インターアクトの皆さんが育てたサルビアやマリゴールドなどを植えたプランター10箱は中庭に設置しましたのでご覧ください。



医大生が実習を行っています



当院では毎年医学生の実習を受け入れております。今年度も岩手医科大学学生と自治医科大学学生の実習がありました。岩手医科大学の1年生3名は医療体験に、3年生4名、5年生6名が地域医療を、自治医科大学からは1年生3名が見学に、5年生3名が地域医療実習を行いました。

チーム医療について理解を深めることや、地域医療の診療に参加・体験することで、専門性にとらわれない総合的な診療を学ぶことを目標に当院で実習を行いました。実習を終えた医学生から「大学では体験できないことを学び、充実した実習でした。」との感想が寄せられました。

ふれあい慰問の会

平成28年8月26日(金)千厩町女性団体連絡協議会主催で「ふれあい慰問の会」が当院1階待合ホールにて開催されました。藤野宣子会長よりご挨拶のあと、当院小原真副院長より日頃の皆さんへの感謝と本日の慰問を歓迎する挨拶がありました。『頭・肩・膝・ポン』の軽体操からスタートし、各婦人会の皆さんから踊りや歌、ダンスなどを披露していただき、最後は皆さんで「千厩小唄」を踊りました。歌の時は患者さんからも大きな歌声が聞こえました。また、「はやくよくなってください。」などの優しいことばと一緒に患者さんやご家族、職員へプレゼントが手渡されました。楽しいひと時を過ごすことが出来ました。





その人らしさを大切にした看護



総看護師長 熊谷 眞貴子

4月より赴任いたしました熊谷眞貴子です。よろしくお願いたします。

初任地が宮古病院、次に千厩病院・磐井病院・高田病院・そして今回2回目の千厩病院勤務となります。

千厩病院は築21年目ですが、明るい雰囲気、玄関前や中庭などには季節感のあるたくさんの花々が咲き、患者さんの回復過程に大きな好影響につながるだけでなく、来院される方々やスタッフの「癒しの空間」となっております。日頃から花壇整備等で活動していただいているボランティアの皆さまに感謝申し上げます。

さて、千厩病院の今年度のキーワードは『Evolution(進化)』、看護科の理念は「患者さんの想いに寄り添い、その人らしさを大切にした看護を提供します」です。

地域に根差した病院として、役割機能を充実し、住み慣れた地域でその人らしく生活できる体制の強化を今年度の目標にあげています。

診療科では、総合診療科を総合診療内科へ、外科を総合診療外科に名称変更がありました。病棟では、回復期リハビリ病棟と包括ケア病床において多職種によるリハビリテーション等在宅復帰に向けてのケアを行い、安心して在宅等で生活できるように取り組んでいます。

私たち職員が業務として日常的に考えていることが、患者さん・ご家族の皆さまには想像がつかない、または、考え方にズレが生じることがあるかと思えます。そこで私たち職員は患者さんを主に考え丁寧な説明を心がけてまいりますので、いつでもどこでも遠慮なく声をかけてください。患者さんが、その人らしく生き生きと生活できることへのケアをどこまでできるかは私達のやりがいにもつながっています。

また、入院時には患者さんやご家族の方から今後どのような生活を望まれているかを伺い、院内や院外の関連部門と情報を共有しケアが継続できるよう体制を整えております。

院外での体制整備として、今年度から医療・介護・福祉関係施設や事業所間の顔の見える関係づくりから始め、切れ目なくケアが受けられるように定期的な会議を行っております。その人らしく生きぬくためのケアがどうあるべきかを話し合いそれぞれの役割が発揮できるよう連携を強化しておりますので、皆さまの声を聞かせてください。

最後に、地域の皆さまとの関わりを大切にするため、また、生活習慣病予防や健康維持のための知識や意識を高めていただけるよう出前講演等、病院から外へ出向き職員を講師として派遣しております。院内には各専門職が勤務しておりますので、地域ごとや個人でも健康管理のために、それから、支えあえる地域づくりのためにどうぞご活用ください。より良い病院を目指し、地域の皆さまと一緒に考えて、育っていきたく思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



出前講演の問い合わせ等については、看護事務室へ、または千厩病院ホームページでも確認できます。

<http://www.senmya-hospital.jp>

千厩病院

検索

カチ

千厩病院 放射線技術科の紹介

1. 運営方針

平成28年度キーワード 『Evolution(進化)』

放射線科取組み目標として

- ・ 磐井地域病院間(磐井、大東、千厩)の業務応援体制の構築。
- ・ 電子カルテ導入(今年度2月予定)と部門システムの整備。
- ・ 各部署との連携強化。



2. スタッフ紹介

診療放射線技師長(1名)・副診療放射線技師長(1名)
主査診療放射線技師(1名)・診療放射線技師(4名)
放射線補助員(1名)

3. 放射線技術科の地域連携の体制

< 読影診療医への読影依頼 >

CT・MRI 検査の読影を盛岡市の鈴木先生に依頼しています。画像転送して、翌日には読影の結果が出ます。

また毎月第3木曜日に読影医が来院し、CT・MRI 等画像の読影・画像研修会を行います。

< 両磐圏域(磐井病院・千厩病院・大東病院・南光病院・花泉診療センター)の検査実績 >
毎月の放射線検査の実績を山田病院に送っています。

データは山田病院で集約され、年に4回業務実績比較表として結果が出ます。

< 他の病院、施設への情報提供 >

患者紹介の際は、撮影した画像をCD-R・DVD-R または画像転送し、紹介先へお渡しします。

< 研修会 >

両磐圏域と大船渡病院で年数回行っています。

4. 平成27年度実績

総検査件数 18572 件、一般撮影 10115 件、ポータブル 1747 件、CT 4336 件、MRI 1058 件、

X線TV 1254 件、画像データ書き出し・取り込み 1407 件

夜間及び休日の救急対応 救急対応延べ件数 438 件

業務時間内1日平均51件、救急呼び出し平均1日 7.6 件以上

新たな検査も増えると予測されますが、スタッフ 8 名頑張って業務に励みたいと思います。

放射線検査の役割(機器紹介)

< 一般撮影 >

検診などで肺の写真といえばこの検査になります。

撮影する部位にX線を照射してその透過像を映し出すもので、空気が多い肺は黒く硬い骨は白く映し出されます。他に骨の骨折・おなかの石やガス像も映し出されます。映す場所によっては、シップ・ボタン・装飾品(ネックレス・時計)、下着の金具などが映りこみ診断の邪魔になる場合があります。



一般撮影装置



骨塩定量検査装置

< 骨塩定量検査 >

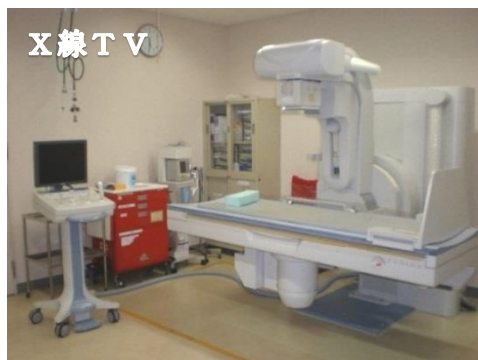
骨粗鬆症の診断に使います。

微量のX線を照射して、その透過から骨密度を計算します。骨密度とは、骨存在するミネラル(カルシウムなど)がどの程度あるかという単位面積あたりの骨量を示し骨の強度を表しています。

<マンモグラフィー(X線乳房検査)>

柔らかい組織でできている乳房を専用の装置で圧迫し、内部の微細な病変を映し出します。

乳房内の組織を見やすくするため圧迫しますが、痛いときは遠慮せず、技師に声をかけてください。



X線TV



マンモグラフィー
撮影装置

<X線TV室(X線透視検査)>

胃の透視と言われる検査はここでを行います。

X線を出しながら体の中の画像をTVモニターに写し、リアルタイムで観察することが出来ます。また内視鏡検査(大腸カメラ・胆嚢検査等)等を進める手段としても透視検査は不可欠となっています。



Q 胃の検査ではなぜバリウムを飲むのでしょうか。

A 胃そのものはX線写真に写らないため、バリウム(硫酸バリウム)を飲み、薄い膜をつくることによって観察することが出来るようになります。

(現在は内視鏡検査を行うことが増えています。)

<CT検査(Computed Tomography)>

CT検査はX線検査の立体版で、レントゲン照射したあとにコンピュータで輪切り画像として体の内部を表示する装置です。

救急診療でもよく使われ、脳出血や腹痛等の検査で幅広く使用されています。



CT装置



ポータブル撮影装置

<ポータブル撮影(移動型X線撮影装置)>

一般撮影室ではなく救急室や病棟等の移動できない患者さんを撮影するための移動型撮影機です。胸部写真や骨折などの検査に使用されています。

PACS(医用画像管理システム)について

X線写真は従来、フィルムを使っていましたが、現在はPCモニター上での診断に変わっています。実際の撮影もFPD(フラットパネルディテクター)を使用しています。FPDは液晶モニターの技術の応用でX線を電気信号に変換してデジタルカメラのように画像を映し出します。PACSはこの画像を集め、インターネットのように院内各所で診ることが出来るようにするシステムです。

<MRI(磁気共鳴画像診断装置)>

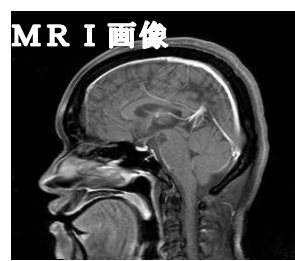
MRIは強力な磁力を使って、体内にある水分に作用して撮影する方法です。組織の診断に強く、当院では脳梗塞や胆石等の診断や、ヘルニア等の整形外科的診断によく使われています。ただし強力な磁石を使うため、検査室に入る場合は持ち込めないものが多くあるのでご注意ください。



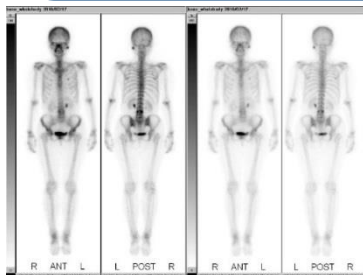
MRI装置

撮影室内に持ち込み不可（主に金属）

財布（硬貨・磁気カード等）、貴金属類（時計・イヤリング等）
めがね、入れ歯、補聴器、カイロ、かつら、磁気治療具、
腰痛バンド、ブラジャー（ホック有りの場合）、湿布等



MRI 画像



RI 画像

<RI(ガンマカメラ、シンチ、SPECT)>

RIは Radioisotope の略で放射性医薬品を使用する検査です。
体内に投与後、体内から出るγ線を画像にします。
当院では主に骨や脳の検査に用いられています。

放射線技術科 診療放射線技師長 野崎 泰久



第44回

千厩夏まつり

千厩夏まつりに参加して



7月30日(土)に第44回千厩夏まつりが開催され、自分の地元の近くにも関わらず
また、同じ一関に住んでいて、今回初めて参加しました。

浴衣を綺麗に着せて頂き、普段通っている商店街がお祭り仕様になり、全然違う
道に見えました。暑い日でしたが、子供から大人まで沢山に方が参加して、見ているだけでとても盛り上がりまし
た。今回プラカードを持ち参加しましたが、薬剤科の窓口でお話しする患者さんが顔を覚えていてくれて、お声を
掛けてくださったり、沿道の方々が手拍子をしてくれたりと、地域の沢山の方と触れ合うことができ、とても楽しい
時間を過ごしました。来年も参加して、少しでも地域に、病院に貢献していきたいと思います。

薬剤科 薬剤師 及川 はるか



7月30日(土)に千厩夏まつりが開催され、参加させていただきました。院内や沿
道での患者さんや地域の皆様の暖かい応援ありがとうございました。

私は今年初めて千厩に来て、初めて夏まつりに参加させていただきました。病院
関係者はもちろん、地域の皆様ともふれ合うことができ、また、ゆっくり千厩の街を見
ることができ、とても充実した時間を過ごせました。このような地域の皆様との交流でき
る場を大切に、今後も参加させていただきたいと思います。来年の夏まつりも楽し
みにしています。

リハビリテーション技術科 理学療法士 玉山 優奈

「すべての人びとに安らぎと希望を」



復興と再生へ

~Together As ONE~

再生への願い【若草リボン】

<http://www.senmya-hospital.jp> Email:EA1012@pref.iwate.jp

岩手県立千厩病院

〒029-0803

岩手県一関市千厩町千厩字草井沢32番1

TEL 0191-53-2101

FAX 0191-52-3478

編集・発行 岩手県立千厩病院広報委員会